

高校地学プリント（過去問類似）

地学ⅠA（旧課程の過去問） No.1

名前

得点

／10

問1 赤道直下（緯度0度）の地点における周極星の観測について、最も適切な説明はどれか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 北極星は周極星として常に観測できる
2. 赤緯が0度に近い星ほど周極星になりやすい
3. 周極星は存在しない
4. すべての星が周極星となる

問2 地球の公転に伴い、ある恒星が南中する時刻は毎日少しずつ変化する。この現象に関する記述として最も適当なものはどれか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 地球の公転により、同じ恒星が同じ位置に見える時刻は1ヶ月で約1時間ずつ早くなる。
2. 地球の公転により、同じ恒星が同じ位置に見える時刻は1ヶ月で約2時間ずつ早くなる。
3. 地球の公転により、同じ恒星が同じ位置に見える時刻は1ヶ月で約3時間ずつ早くなる。
4. 地球の公転により、同じ恒星が同じ位置に見える時刻は1ヶ月で約4時間ずつ早くなる。

問3 火山噴火による気候変動に関する記述として、誤っているものはどれか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 火山噴火による寒冷化は、成層圏に滞留した微粒子が太陽放射を遮ることによって発生する。
2. 大規模な火山噴火は、地球規模の環境変化を引き起こす自然要因の一つである。
3. 火山灰やガスによる日射の減少は、地球全体の平均気温に影響を及ぼすことがある。
4. 火山噴火で放出された物質が成層圏に達すると、地表の気温は上昇する傾向にある。

問4 石油の可採年数を算出するための正しい定義はどれか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 確認されている埋蔵量をその時の年間採掘量で割った値
2. 年間採掘量をその時の確認されている埋蔵量で割った値
3. 確認されている埋蔵量から年間採掘量を差し引いた値
4. 年間採掘量に確認されている埋蔵量を乗じた値

問5 恒星の日周運動の周期が太陽日（24時間）と異なる理由として最も適切なものはどれか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 地球が太陽の周りを公転しているため、地球の自転と公転の合成によって太陽の南中時刻がずれるから。
2. 地球が自転軸に対して傾いて公転しているため、季節によって日周運動の速度が変化するから。
3. 恒星までの距離が非常に遠いため、地球の公転による視差が日周運動の周期に影響を与えるから。
4. 地球の自転速度が一定ではなく、太陽の重力の影響を受けて周期がわずかに変動するから。

問6 地球誕生初期の原始大気の組成に関する記述として最も適当なものはどれか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 水素やヘリウムが大量に存在し、大気の大部分を占めていた。
2. 現在の地球大気と同様に、窒素と酸素が主成分であった。
3. 二酸化炭素が主成分であり、酸素はほとんど存在しなかった。
4. 水蒸気は存在せず、乾燥した二酸化炭素と窒素の混合気体であった。

問7 鉱床の分類と生成過程の組み合わせとして、誤っているものを次のうちから一つ選べ。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 熱水鉱床：マグマ活動に関連する
2. 漂砂鉱床：マグマ活動に関連する
3. 残留鉱床：堆積作用に関連する
4. ペグマタイト鉱床：マグマ活動に関連する

問8 惑星の観測と特徴に関する記述として、誤っているものはどれか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 内惑星である水星の離角には、観測可能な最大値が存在する。
2. 金星は夕方の西の空に見える際に宵の明星と呼ばれる。
3. 火星の明るさは地球との距離の変化によって大きく変動する。
4. 水星は金星よりも常に明るく観測される。

問9 マグマの性質や噴火の様式に関連して、高温の火山ガスと火山砕屑物が混ざり合い、高速で斜面を流れ下る現象として最も適切なものはどれか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 火山泥流
2. 溶岩流
3. 火砕流
4. 土石流

問10 地震波が地盤を伝わる際、地盤の性質によって揺れが増幅される現象の背景にある理由として、最も適切なものはどれか。

（2005年 全国公立入試 類似）

1. 軟弱な地盤では地震波の伝播速度が遅くなるため、エネルギーが蓄積され、振幅が大きくなるから。
2. 埋立地では地盤が均質であるため、地震波が反射を繰り返して干渉し、波が打ち消し合うから。
3. 山地や丘陵地は地殻変動の影響を強く受けているため、地震波を吸収して減衰させる性質があるから。
4. 沖積平野では地下水位が低いから、地震波の伝播速度が速くなり、建物への衝撃が緩和されるから。

高校地学プリント（過去問類似）

地学 I A（旧課程の過去問） No.2

名前

得点

／10

問1 火砕流が発生するメカニズムとして、マグマの物理的性質と噴火様式の間を説明したものとして最も適切なものはどれか。

（2005年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1. マグマからガスが効率的に分離して抜けた後に、爆発的噴火が起こる。 | 2. 粘性が高くガスが抜けにくいマグマが、爆発的な噴火を起こす。 | 3. マグマの粘性が非常に低く、ガスが容易に抜けることで高速流動が発生する。 | 4. マグマが地下で冷却固結した後に、山体の崩壊を伴って発生する。 |
|-------------------------------------|----------------------------------|--|-----------------------------------|

問2 南半球の観測者が北の空を向いてオリオン座を観察する際、北半球での見え方と比べて「左右逆転」が生じる理由として、最も適切な説明はどれか。 （2006年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 南半球では北極星が見えないため、天球の基準点なくなり星座が反転して見えるため | 2. 南半球では地球の自転方向が北半球と逆向きになるため、星の配置が回転して見えるため | 3. 南半球では大気の屈折率が北半球と異なり、光の進路が曲げられて見えるため | 4. 観測者が北半球の観測者に対して地球の反対側に位置し、天球を反対側から見上げることになるため |
|---|---|--|--|

問3 オゾン層が存在する成層圏に関する記述として、最も適切なものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 成層圏は対流圏の上部に位置し、オゾンによる紫外線吸収で気温が上昇する特徴がある。 | 2. 成層圏は地表から10キロメートル以下の範囲にあり、気象現象が活発に起こる。 | 3. 成層圏にはオゾンがほとんど存在せず、主に水蒸気の凝結による雲が発達する。 | 4. 成層圏は高度50キロメートル以上の領域を指し、大気が非常に希薄である。 |
|---|--|---|--|

問4 赤道座標系に関する記述として最も適切なものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|-------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 1. 赤道座標は地球の公転軌道面を基準面として定義される。 | 2. 赤緯は天の北極を原点として天の赤道に向かって測定される。 | 3. 赤経は春分点を原点として天の赤道に沿って測定される。 | 4. 赤道座標における赤緯の範囲は0度から360度である。 |
|-------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|

問5 地球の内側を公転する惑星である金星が、地球から見て太陽から最も離れて見える「最大離角」の状態にあるとき、金星はどのような形状に見えるか。 （2004年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|--------------|--------------|-------------|------------|
| 1. ほぼ満月状に見える | 2. 常に新月状に見える | 3. 三日月状に見える | 4. 半月状に見える |
|--------------|--------------|-------------|------------|

問6 地盤沈下のメカニズムと特性に関する説明として、誤っているものはどれか。 （2004年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|----------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 地盤沈下は、地下水の過剰な汲み上げが主な原因の一つである。 | 2. 地下水位を回復させることで、沈下した地盤を元の標高まで完全に復元させることが可能である。 | 3. 地盤沈下は、大都市や工業地域において顕著に発生しやすい傾向がある。 | 4. 地層の圧密は、地下水位の低下に伴う有効応力の増加によって進行する。 |
|----------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------------|

問7 大森公式における比例定数（大森定数）が決定される物理的な根拠として最も適切なものはどれか。 （2006年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|-------------------------|--------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 1. P波とS波の伝播速度の差に基づいている。 | 2. 地殻の密度と弾性波の減衰率に基づいている。 | 3. 震源における地震波の放出エネルギーに基づいている。 | 4. 観測点における地盤の揺れの増幅率に基づいている。 |
|-------------------------|--------------------------|------------------------------|-----------------------------|

問8 地球の公転が天体の見かけの運動に及ぼす影響について、その物理的背景として正しいものはどれか。 （2006年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 地球の公転軌道が楕円形であるため、ケプラーの第2法則により天体の見かけの移動速度が変化する。 | 2. 地球の自転軸が公転面に対して傾いているため、天体の南中高度が季節によって変化する、年周運動が生じる。 | 3. 地球が太陽の周りを公転しているため、同じ時刻でも地球の位置が異なり、背景となる恒星との位置関係が変化する。 | 4. 地球が自転しながら公転しているため、日周運動と年周運動が合成され、天体は常に円を描いて移動する。 |
|---|---|--|---|

問9 日本列島周辺の地学的な特徴として、プレートの沈み込みと火山活動および地震発生に関する説明した記述として最も適切なものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 内陸部の活断層による地震は、海洋プレートの沈み込みとは無関係であり、主に地球内部の熱対流によってのみ発生する。 | 2. 海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む際、地下深部でマグマが生成され、それが上昇することで火山活動が引き起こされる。 | 3. 巨大地震はすべて内陸部の活断層で発生し、太平洋沖合のプレート境界では地震はほとんど発生しない。 | 4. 日本列島の下では大陸プレートが海洋プレートの下に沈み込んでおり、その摩擦によって巨大地震が発生している。 |
|--|--|--|---|

問10 地球の自転に伴う日周運動とは別に、月が恒星に対して移動する方向として正しいものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 南から北 | 2. 東から西 | 3. 北から南 | 4. 西から東 |
|---------|---------|---------|---------|

高校地学プリント（過去問類似）

地学 I A（旧課程の過去問） No.3

名前

得点

/9

問1 地球の初期の海において、光合成によって放出された酸素が、大気中に蓄積されるよりも先に海底に沈殿した物質は何か。

（2004年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|------------|---------|--------|
| 1. 硫化水素 | 2. 炭酸カルシウム | 3. ケイ酸塩 | 4. 酸化鉄 |
|---------|------------|---------|--------|

問2 日本列島における地震発生のメカニズムに関する記述として、誤っているものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 兵庫県南部地震や福井地震のような内陸直下型地震は、すべて海洋プレートの沈み込みが直接的な震源となって発生する。 | 2. 内陸部の活断層による地震は、プレート運動によって日本列島全体に加わる力の影響を受けて発生する。 | 3. 日本列島における火山活動の多くは、沈み込む海洋プレートから供給される水がマントルの融点を下げることで発生するマグマに起因する。 | 4. 太平洋沖合で発生する巨大地震は、沈み込む海洋プレートと大陸プレートの境界で蓄積された歪みが解放されることで起こる。 |
|--|--|--|--|

問3 地殻を構成する主要な元素であり、太陽電池の半導体材料として利用されるケイ素に関する記述として最も適当なものはどれか。 （2004年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. ケイ素は金属元素であり、光を反射する性質を利用して太陽電池の表面に使用される。 | 2. ケイ素は地殻中に豊富に存在する元素であり、半導体としての性質を利用して発電を行う。 | 3. ケイ素は地殻中で最も多く存在する元素であり、高い導電性を持つため太陽電池の電極に使用される。 | 4. ケイ素は非金属元素であるが、不純物を加えることで絶縁体となり太陽電池の基板として機能する。 |
|--|--|---|--|

問4 石油の賦存に関する記述として、地学的な観点から正しいものはどれか。 （2006年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 石油は地表付近で固体として存在し、不透水層の存在は石油の形成過程にのみ関与する | 2. 石油は火成岩の隙間に溜まることが多く、不透水層の有無は貯留に影響を与えない | 3. 石油は主に堆積岩の地層に溜まり、その上部を不透水層が覆うことで流出が防がれている | 4. 石油は褶曲地層であれば必ず溜まっており、不透水層の存在は考慮する必要がない |
|--|--|---|--|

問5 太陽が長期間にわたり安定してエネルギーを放出し続ける理由として、最も適切な説明はどれか。 （2004年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 地球放射として放出されるエネルギーが太陽内部へ還流しているため | 2. 重い原子核が分裂する核分裂反応が中心部で連鎖的に発生しているため | 3. 太陽表面から放出される赤外放射が内部に再吸収される循環構造があるため | 4. 中心部で水素原子核がヘリウム原子核に変化する核融合反応が継続しているため |
|------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|---|

問6 ゼロメートル地帯が形成される主な要因として、地質学のおよび人為的な観点から最も妥当な説明はどれか。 （2006年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|--------------------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|
| 1. 河川の堆積作用による土砂の蓄積と標高の上昇 | 2. プレート境界の断層運動に伴う急激な隆起 | 3. 地下水の過剰な汲み上げによる地盤の圧密沈下 | 4. 海岸線の後退による海面水位の相対的な低下 |
|--------------------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|

問7 海底地形図において、水深を示す等深線が同心円状に描かれ、中心部に向かって水深が浅くなっている地形として最も適切なものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-------|----------|---------|
| 1. 中央海嶺 | 2. 海山 | 3. 海底扇状地 | 4. 海岸段丘 |
|---------|-------|----------|---------|

問8 大陸の縁辺部から深海へと続く海底地形の一般的な特徴として、最も妥当なものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|-----------------------------------|---|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 大陸棚の外側には大陸斜面が続き、さらにその先に深海が広がる。 | 2. 大陸棚は深海よりも急な傾斜を持ち、水深1000m付近で最も急勾配になる。 | 3. 大陸斜面は大陸棚よりも緩やかな傾斜を持ち、堆積物が厚く蓄積する。 | 4. 深海平原は大陸棚のすぐ内側に位置し、水深が最も浅い場所である。 |
|-----------------------------------|---|-------------------------------------|------------------------------------|

問9 正マグマ性鉱床が形成される際、有用な鉱物がマグマ溜まりの下部に沈殿・濃集する主な物理的要因はどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

- | | | | |
|---------------------|------------------------|--------------------|------------------------|
| 1. 周囲の岩石との化学反応による置換 | 2. 地表付近での急激な温度低下による結晶化 | 3. 熱水からの金属成分の溶解度低下 | 4. マグマの冷却に伴う密度差による重力沈降 |
|---------------------|------------------------|--------------------|------------------------|

高校地学プリント（過去問類似）

地学 I A（旧課程の過去問） No.4

名前

得点

／11

問1 ある恒星が南中する時刻が、1ヶ月（約30日）経過するとどのように変化するか。最も適切なものを選び。 （2006年 全国公立入試 類似）

1. 約2時間早くなる 2. 約2時間遅くなる 3. 約30分早くなる 4. 約30分遅くなる

問2 流紋岩質のマグマが爆発的な噴火を引き起こしやすい主な理由として、最も適切なものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

1. マグマの粘性が低く、内部の気泡が急速に上昇して地表で破裂するため 2. マグマの粘性が高く、内部で発生した気泡が抜けにくくガスが蓄積されるため 3. 二酸化ケイ素の含有量が少なく、マグマの温度が非常に高くなるため 4. 玄武岩質マグマよりも密度が小さく、地殻を突き抜ける上昇速度が速いため

問3 石炭の形成過程と資源としての性質に関する記述として誤っているものはどれか。 （2006年 全国公立入試 類似）

1. 石炭は、主に陸域の湿地などで堆積した植物遺骸が、長期間の圧力と熱を受けて形成される。 2. 石炭の埋蔵量は、地質学的な形成過程に基づき、採掘の有無にかかわらず一定の物理的総量が存在する。 3. 日本において石炭採掘が縮小したのは、埋蔵量が枯渇してゼロになったことが主たる要因である。 4. 石炭の採掘方法には、地表から掘り進む露天掘りと、地下深くを掘る坑道掘りがある。

問4 月食および日食に関する記述として、誤っているものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

1. 日食が起こる際、月は新月の状態にある。 2. 日食は、月が太陽と地球の間に入り、太陽を隠す現象である。 3. 月食は、地球が太陽と月の間に位置することで起こる現象である。 4. 月食の際、月は必ず赤道面上に位置しなければならない。

問5 ある河岸段丘の断面において、右岸に礫層cと礫層bが重なって存在し、その上に火山灰層Xが堆積している。このとき、礫層cが礫層bよりも下位にある場合、これらの形成順序として正しいものはどれか。 （2004年 全国公立入試 類似）

1. 礫層cが最も古く、次に礫層b、最後に火山灰層Xの順である。 2. 礫層bが最も古く、次に礫層c、最後に火山灰層Xの順である。 3. 火山灰層Xが最も古く、次に礫層c、最後に礫層bの順である。 4. 礫層cと礫層bは同時に形成され、その後に火山灰層Xが堆積した。

問6 月の満ち欠けと観測に関する記述として、最も適切なものはどれか。 （2004年 全国公立入試 類似）

1. 日食が起こる時の月は満月である 2. 新月は東の空から昇り、西の空へ沈む 3. 三日月は日没後の西の空に見える 4. 上弦の月は日の出時に南中する

問7 気象衛星の可視画像において、日本列島付近に東西に長く伸びる雲の帯が停滞している様子として、最も適切な気象現象はどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

1. 台風 2. 梅雨前線 3. 熱帯低気圧 4. 寒冷前線

問8 日本のエネルギー供給構成の変遷に関する記述として、最も適切なものはどれか。 （2005年 全国公立入試 類似）

1. 石油の割合は1970年代をピークとして低下したが、1990年代後半には再び50パーセント台まで上昇した。 2. 1990年代以降、再生可能エネルギーの利用促進により、それらの供給割合は石油以外の化石燃料の供給割合を上回るようになった。 3. 1955年から1995年までの期間において、原子力エネルギーの供給割合は常に全エネルギー供給の10パーセントを超えて推移した。 4. 1970年代には石油への依存度が極めて高かったが、その後、天然ガスや原子力等の導入により石油の割合は低下傾向にある。

問9 太陽が膨大なエネルギーを放出し続ける主な源として、最も適切なものはどれか。 （2004年 全国公立入試 類似）

1. ウランなどの重い原子核の核分裂反応 2. 中心部における水素原子核の核融合反応 3. 地表から放出される地球放射のエネルギー 4. 太陽表面から放射される赤外放射の蓄積

問10 地球から見た月の満ち欠けが、新月から再び新月に戻るまでの平均的な周期を何と呼ぶか。 （2005年 全国公立入試 類似）

1. 近点月 2. 恒星月 3. 朔望月 4. 交点月

問11 夕方6時頃に満月を観測したとき、その位置として最も適切なものはどれか。 （2006年 全国公立入試 類似）

1. 東の空の地平線付近 2. 南の空の高い位置 3. 西の空の地平線付近 4. 北の空の高い位置

高校地学プリント（過去問類似）

地学 I A（旧課程の過去問） No.5

名前

得点

/9

問1 地震発生時に観測される初期微動継続時間について、最も適切な説明はどれか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 震源から放出された2種類の地震波が、地表で重なり合うことで生じる現象である。
2. 岩石が破壊される際に放出される地震波のエネルギーの総量である。
3. 地殻下部で地震波が反射し、観測点に到達するまでの時間の遅れである。
4. P波とS波の伝播速度の差によって生じる、両者の到着時刻の差である。

問2 南半球の観測者が北の空を向いてオリオン座を観察する際、北半球での見え方と比べて「左右逆転」が生じる理由として、最も適切な説明はどれか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 観測者が北半球の観測者に対して地球の反対側に位置し、天球を反対側から見上げることになるため
2. 南半球では地球の自転方向が北半球と逆向きになるため、星の配置が回転して見えるため
3. 南半球では大気の屈折率が北半球と異なり、光の進路が曲げられて見えるため
4. 南半球では北極星が見えないため、天球の基準点がなくなり星座が反転して見えるため

問3 石油鉱床の形成に関する記述として、最も適切なものはどれか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 石油は有機化合物であるが、地層の透水性は鉱床の形成には影響を与えない
2. 石油鉱床は主に中生代の砂岩層のみで形成され、不透水層は形成に関与しない
3. 石油は生物遺骸が地熱や圧力で変化したものであり、貯留には不透水層が重要である
4. 石油鉱床は生物遺骸が堆積した場所で直接形成され、地層の移動は発生しない

問4 冬至のころ、日本において満月が南中した際の天球上の位置関係に関する記述として、最も適切なものはどれか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 太陽の南中高度と満月の南中高度は常に等しくなる
2. 太陽の南中高度よりも満月の南中高度の方が高くなる
3. 太陽の南中高度よりも満月の南中高度の方が低くなる
4. 満月は南中せず、常に地平線付近に位置する

問5 地震の観測において、震源までの距離を求めるために用いられる大森公式に関する記述として最も適当なものはどれか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 震源距離は、初期微動継続時間の平方根に比例定数を乗じることで推定できる。
2. 震源距離は、初期微動継続時間の2乗に比例定数を乗じることで推定できる。
3. 震源距離は、初期微動継続時間を比例定数で除することで推定できる。
4. 震源距離は、初期微動継続時間に比例定数を乗じることで推定できる。

問6 地球誕生初期の原始大気の組成に関する記述として最も適当なものはどれか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 二酸化炭素が主成分であり、酸素はほとんど存在しなかった。
2. 現在の地球大気と同様に、窒素と酸素が主成分であった。
3. 水素やヘリウムが大量に存在し、大気の大部分を占めていた。
4. 水蒸気は存在せず、乾燥した二酸化炭素と窒素の混合気体であった。

問7 日本海側の大雪をもたらす気象メカニズムにおいて、大陸から流出した空気が日本海を渡る際に生じる物理的な変化として正しいものはどれか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 海面との摩擦により風速が低下し、空気塊の密度が急激に減少する
2. 海面からの熱と水蒸気の供給により、空気塊の温度と湿度が上昇する
3. 海面からの熱の放出により、空気塊の温度が低下し湿度が低下する
4. 貿易風の吹き込みにより、空気塊の運動エネルギーが熱エネルギーに変換される

問8 兵庫県南部地震のような内陸の浅い地震で観測される震度分布の特徴について、その背景にある物理的要因として正しい説明はどれか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 震源の深さが浅いほど、震度分布は震源を中心とした同心円状に広がる
2. 地震波の伝播速度が地盤の硬軟に関わらず一定であるため分布が直線的になる
3. 断層の破壊過程が震度分布の空間的な広がりを規定する
4. 地盤の増幅特性よりも、震源からの距離が震度を決定する唯一の要因である

問9 ある地震観測点において、初期微動継続時間が10秒であった。大森公式の定数を8.0とした場合、この観測点から震源までの距離として最も適切なものはどれか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 30 km
2. 80 km
3. 70 km
4. 32 km